



1\_ 「荻外荘」の概要

2\_ 「荻外荘」の基礎知識

3\_ 「荻外荘」の復原整備に関する考え方について

4\_ 「荻外荘」の復原整備工事について



## 1\_「荻外荘」と復原整備事業の概要

## 2\_「荻外荘」の基礎知識

2-1\_「荻外荘」建設に至る背景

2-2\_「荻外荘」の場所的価値

2-3\_「荻外荘」の建築的価値

2-4\_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5\_「荻外荘」に関する新発見

## 3\_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1\_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2\_軸組の復原

3-3\_内装の再現(客間が主)

3-4\_復原の社会的意義

## 4\_「荻外荘」の復原整備工事

4-1\_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2\_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3\_復原整備工事における製作物について



## 1\_「荻外荘」と復原整備事業の概要

## 2\_「荻外荘」の基礎知識

2-1\_「荻外荘」建設に至る背景

2-2\_「荻外荘」の場所的価値

2-3\_「荻外荘」の建築的価値

2-4\_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5\_「荻外荘」に関する新発見

## 3\_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1\_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2\_軸組の復原

3-3\_内装の再現(客間が主)

3-4\_復原の社会的意義

## 4\_「荻外荘」の復原整備工事

4-1\_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2\_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3\_復原整備工事における製作物について

# 伊東忠太プロフィール



- 1867 山形県米沢市生まれ
- 1889(22) 帝国大学工科大学入学
- 1892(25) 同大学卒業。卒業論文『建築哲学』
- 1893(26) 東京美術学校にて「建築装飾術」講義を担当
- 1896(29) 古社寺保存会委員就任
- 1898(31) 学位請求論文『法隆寺建築論』
- 1901(34) 結婚
- 1902(35) アジア・欧米留学
- 1905(38) 帰国後、東京帝国大学教授就任
- 1927(60) 荻外荘竣工
- 1928(61) 東京帝国大学退職。早稲田大学教授就任
- 1943(76) 文化勲章受章
- 1954(87) 東京都文京区の自宅にて逝去

出典：  
伊東忠太建築文献編纂会編『伊東忠太建築文献』  
第1巻、竜吟社、1926年  
国立国会図書館デジタルコレクション  
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1214476>  
コマ番号：4

# 竹中工務店プロフィール



第14代竹中藤右衛門

出典：  
『第十四世竹中藤右衛門叙事伝』竹中工務店、  
1968年、p.43

- 1610 初代竹中藤兵衛正高が名古屋で創業
- 1899 14代竹中藤右衛門が神戸に進出（創立元年）
- 1909 「合名会社竹中工務店」設立
- 1911 東京・大阪出張所開設
- 1912 本願寺伝道院竣工（設計：伊東忠太）
- 1920 店主 竹中藤右衛門 欧米視察
- 1923 創立地神戸より大阪に本店を移す
- 1927 荻外荘竣工（設計：伊東忠太）
- 1937 株式会社竹中工務店創立

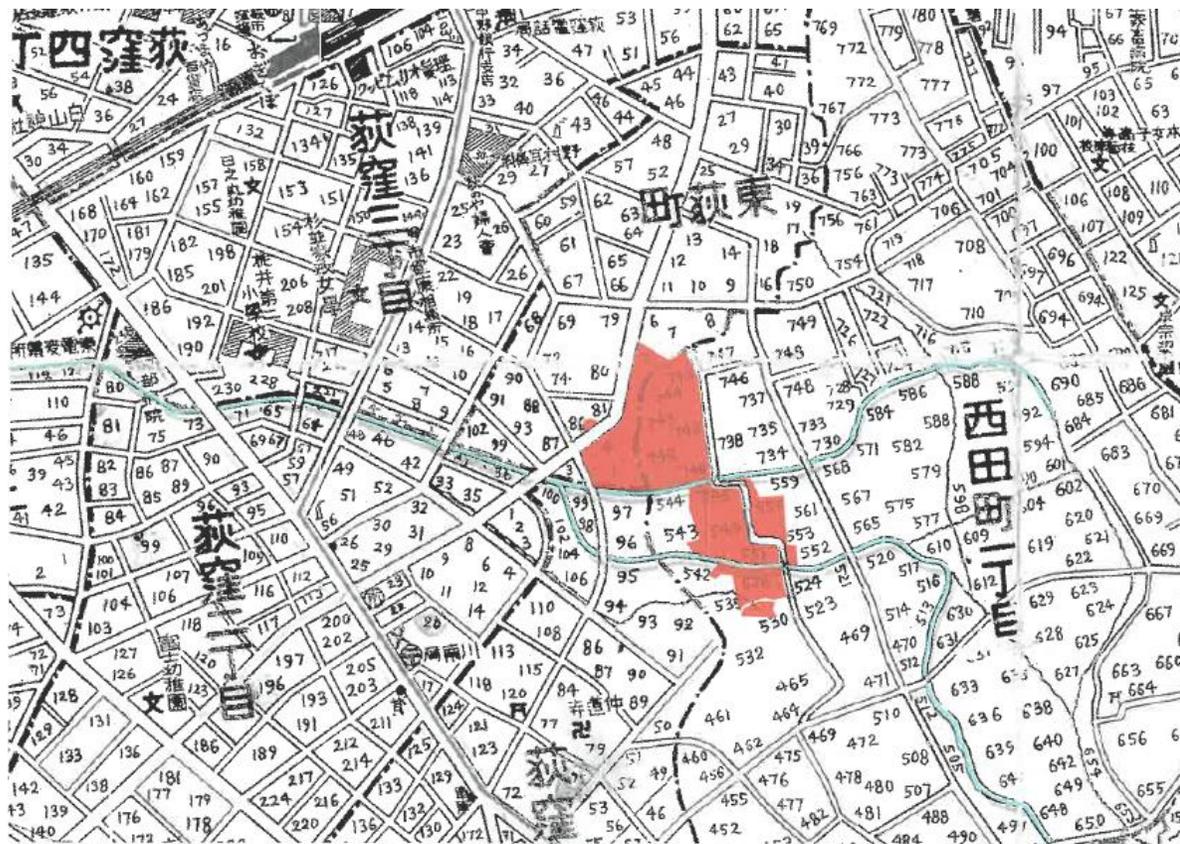
# 入澤達吉プロフィール



- 1865 新潟県見附市生まれ
- 1877(12) 上京(叔父池田謙齋帝大初代医学部長綜理の勧め)
- 1883(18) 帝国大学医学部本科進学
- 1890(25) ドイツ留学(ストラスブール、ベルリン)
- 1894(29) 帰国
- 1895(30) 東京帝国大学内科学助教授
- 1901(36) 同大学教授就任
- 1921(56) 医学部長就任
- 1924(59) 大正天皇侍医頭就任
- 1927(62) 侍医頭辞任
- 1927(62) 荻外荘竣工
- 1938(73) 逝去

出典：  
宮川米次編『入澤達吉先生年譜』  
入沢内科同窓会、1940年  
国立国会図書館デジタルコレクション  
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1905865>  
コマ番号：5

## 2-1-1\_荻外荘建設に至る背景\_①なぜこの土地を入澤達吉は選んだのか？



- 中島力造(1858-1918)による紹介
- 敷地を気に入っていた
- 客人をもてなすため
- 国木田独歩「武蔵野」ブーム(1898)
- 公衆衛生学による住環境改良(森鷗外等)



中島力造

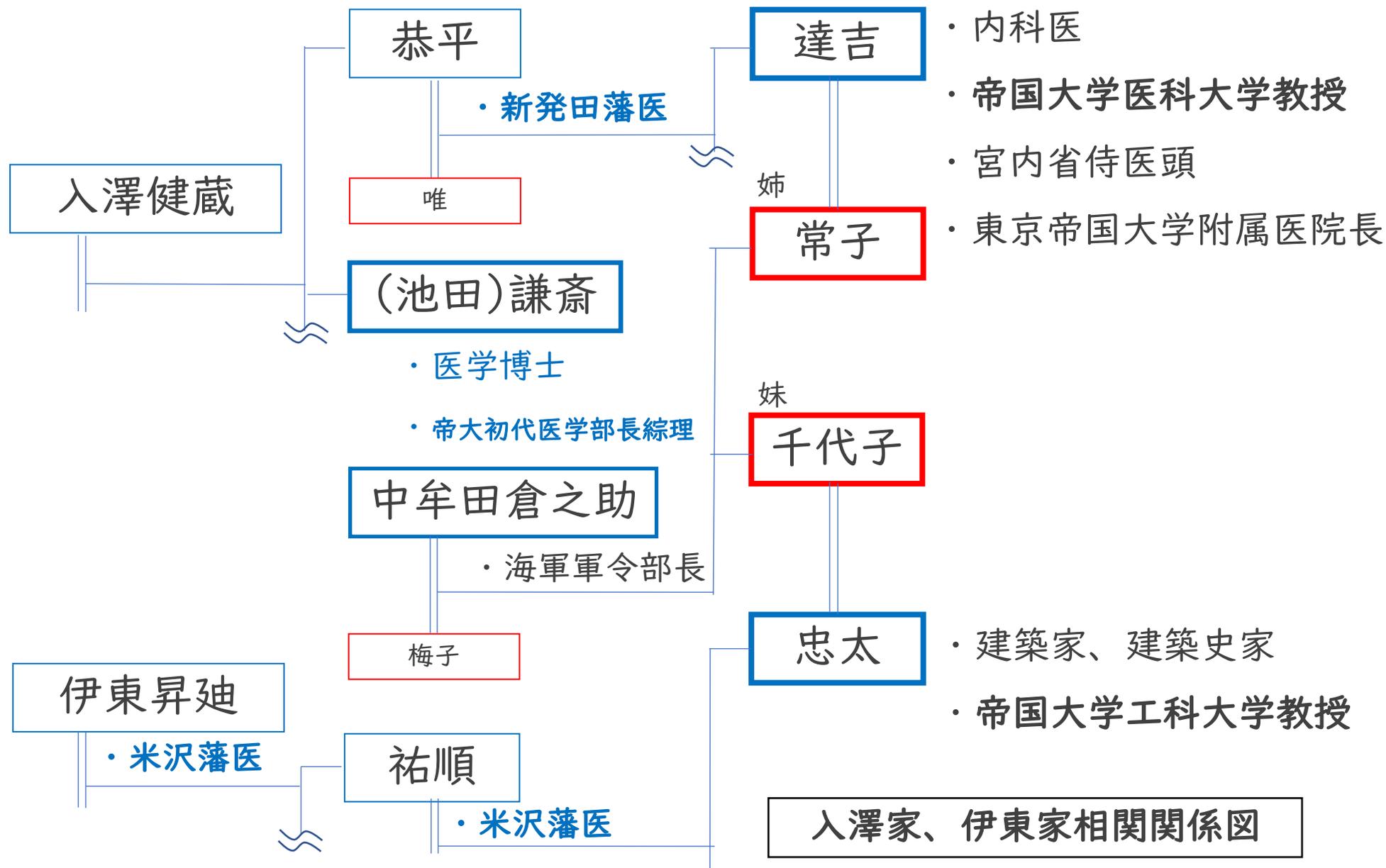
図 1万2千分1「最新杉並区明細地図」昭和12年7月に加筆

文化財シリーズ46 P.94

出典：Wikipedia パブリックドメイン

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E5%B3%B6%E5%8A%9B%E9%80%A0#/media/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Rikizo\\_Nakashima,\\_Professor\\_of\\_Psychology,\\_Ethics,\\_and\\_Logic.jpg](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E5%B3%B6%E5%8A%9B%E9%80%A0#/media/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Rikizo_Nakashima,_Professor_of_Psychology,_Ethics,_and_Logic.jpg)

## 2-1-2\_荻外荘建設に至る背景\_②なぜ設計が伊東忠太なのか？



## 2-1-3\_荻外荘建設に至る背景\_③なぜ施工が竹中藤右衛門（竹中工務店）なのか？

著作権の都合上、非表示としております



西本願寺伝道院/旧真宗信徒生命株式会社社屋

明治45年（1912）竣工

設計：伊東忠太 施工：竹中工務店

出典：  
図録『竹中工務店400年の夢 時をきざむ建築の文化史』世田谷美術館、2016、p. 207

一橋大学兼松講堂

昭和2年（1927）竣工

設計：伊東忠太 施工：竹中工務店

## 2-1-4\_なぜ近衛文麿は荻外荘に住んだのか？

- ・ 総理大臣の「事務的な多忙さ」と首相官邸と私邸の近さ（同じ永田町）ゆえに、「気分の転換」と「心身の休養」が必要で、「遠方でなしに、しかも変わった環境に」住まいを移したいと思案している近衛文麿にとって荻外荘の「ふるさと」を感じさせる武蔵野の周辺環境や「ひどく自分の興味を惹いた」建築を気に入ったから。
- ・ 「（入澤）博士の好意で」近衛文麿は荻外荘を譲り受け、昭和12年12月4日夜「はじめて此処で快眠を貪ったのであった」。

※参考資料：近衛文麿「荻外荘清談（三）」『政界往来』3月号、政界往来社、昭和15年（1940）3月

- ・ 入澤達吉は近衛文麿の「長年健康の相談相手だった」

※参考資料：入澤文明「おやじ(22) 入澤達吉 臨床の妙」『朝日ジャーナル』Vol.6, No9、昭和39年(1964)3月



## 1\_「荻外荘」と復原整備事業の概要

## 2\_「荻外荘」の基礎知識

2-1\_「荻外荘」建設に至る背景

2-2\_「荻外荘」の場所的価値

2-3\_「荻外荘」の建築的価値

2-4\_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5\_「荻外荘」に関する新発見

## 3\_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1\_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2\_軸組の復原

3-3\_内装の再現(客間が主)

3-4\_復原の社会的意義

## 4\_「荻外荘」の復原整備工事

4-1\_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2\_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3\_復原整備工事における製作物について

## 2-2\_荻外荘の場所的価値

- (1) 近衛内閣の政治活動が行われた場所
- (2) 近衛文麿最期の決断の場所
- (3) 荻窪のみどり豊かな屋敷地の景観が残されている場所

# 荻窪会談

(客間にて)

著作権の都合上、非表示としております

(2) 近衛文麿最期の決断の場所



荻外荘 書齋

### (3) 荻窪のみどり豊かな屋敷地の景観が残されている場所



個人提供



## 1\_「荻外荘」と復原整備事業の概要

## 2\_「荻外荘」の基礎知識

2-1\_「荻外荘」建設に至る背景

2-2\_「荻外荘」の場所的価値

2-3\_「荻外荘」の建築的価値

2-4\_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5\_「荻外荘」に関する新発見

## 3\_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1\_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2\_軸組の復原

3-3\_内装の再現(客間が主)

3-4\_復原の社会的意義

## 4\_「荻外荘」の復原整備工事

4-1\_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2\_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3\_復原整備工事における製作物について

## 2-3\_荻外荘の建築的価値

- (1) 伊東忠太設計の現存する邸宅建築としての価値
- (2) 建築資料的な価値
- (3) 建物自体が内包している価値

# (1) 伊東忠太設計の現存する邸宅建築としての価値

ポイント：荻外荘は伊東忠太が設計・監督を務めた住宅の唯一の遺構

## 伊東忠太が設計に関与した住宅リスト

	竣工年	(西暦)	作品名	設計関与	所在地	結果	主要関係者	現存有無
1	明治42年	1909	浅野総一郎邸	設計・監督	東京市	実施	主任：佐々木岩次郎	
2	明治42年	1909	山縣有朋別荘(古希庵)	設計	栃木県矢板市	実施		現存。ただし移築。
3	明治43年	1910	二楽荘	設計	神戸市六甲山	実施	主任：鶴飼長三郎	
4	明治44年	1911	入澤達吉邸	設計・監督	東京市本郷区	実施	主任：佐々木岩次郎	
5	大正4年	1915	内務大臣等官邸	設計・監督	東京市	実施	主任：佐野利器	
6	大正8年	1919	大倉喜八郎小田原別邸	図案原案廃棄、別案に就き顧問	神奈川県小田原町	実施		
7	大正9年	1920	久米民之助箱根別邸門	設計・監督	神奈川県箱根強羅	実施		
8	大正10年	1921	三井養之助庭内亭子	設計	東京市	延期		
9	大正13年	1924	暹羅王宮内宮室及び庭園	設計	バンコク	中止	主任：佐々木岩次郎	
10	大正14年	1925	入澤達吉葉山別邸	一部参画	神奈川県葉山町	実施		
11	大正14年	1925	久米民之助箱根別邸門	考案	神奈川県箱根強羅	中止		
12	大正14年	1925	蒲田梅屋敷旧跡保存計画	設計	東京市	一部実施		
13	昭和2年	1927	大倉喜八郎京都別邸	設計・顧問	京都市	実施		現存。
14	昭和2年	1927	荻外荘(入澤達吉邸「楓荻荘」)	設計・監督	東京市	実施	主任：金子清吉	現存。一部移築。
15	昭和3年	1928	大原孫三郎邸(有隣荘)	設計指導	岡山県倉敷市	実施	設計：薬師寺主計	現存。
16	昭和9-10年	1934-35	白石元治郎熱海別邸	設計・監督	静岡県熱海市	実施		

『伊東忠太建築作品集』(城南書院、1941)より作成。青字部分は杉並区教育委員会編『国指定史跡 荻外荘』(2017)からの追記

## (2) 建築資料的な価値

ポイント：荻外荘は棟札が現存しており、設計者や施工者が明確



現存する棟札

奉棟上大元尊神家門長久栄昌守護所

岡象女神

五帝龍神

設計者工学博士 伊東忠太  
 工事監督建築士 金子清吉  
 請負人 竹中藤右衛門  
 現場員 黒田条次郎

大工棟梁 太田次平  
 世話役 薄井徳治郎

-(3)-

祭式事

同	十一月十四日	加島銀行四谷支店開業	同
同	十八日	鴻池銀行上六支店成工式	同
同	廿日	名古屋龜末廣菓子舗上棟式	同
同	廿一日	入澤邸地鎮祭	同
同	廿五日	南部伯爵邸同	同
同	廿六日	王子製紙淀川工場同	同
同	十二月二日	野村銀行大宮出張所同	同

森井賢之輔 同  
 梅野元彦 東京高橋邸現場へ同  
 川島豊 東京支店見積部へ同  
 大内二男 設計部へ同  
 近藤忠藏 名古屋銀行本店へ同

-(2)-

退店員

十二月卅日 黒阪一男 東京支店

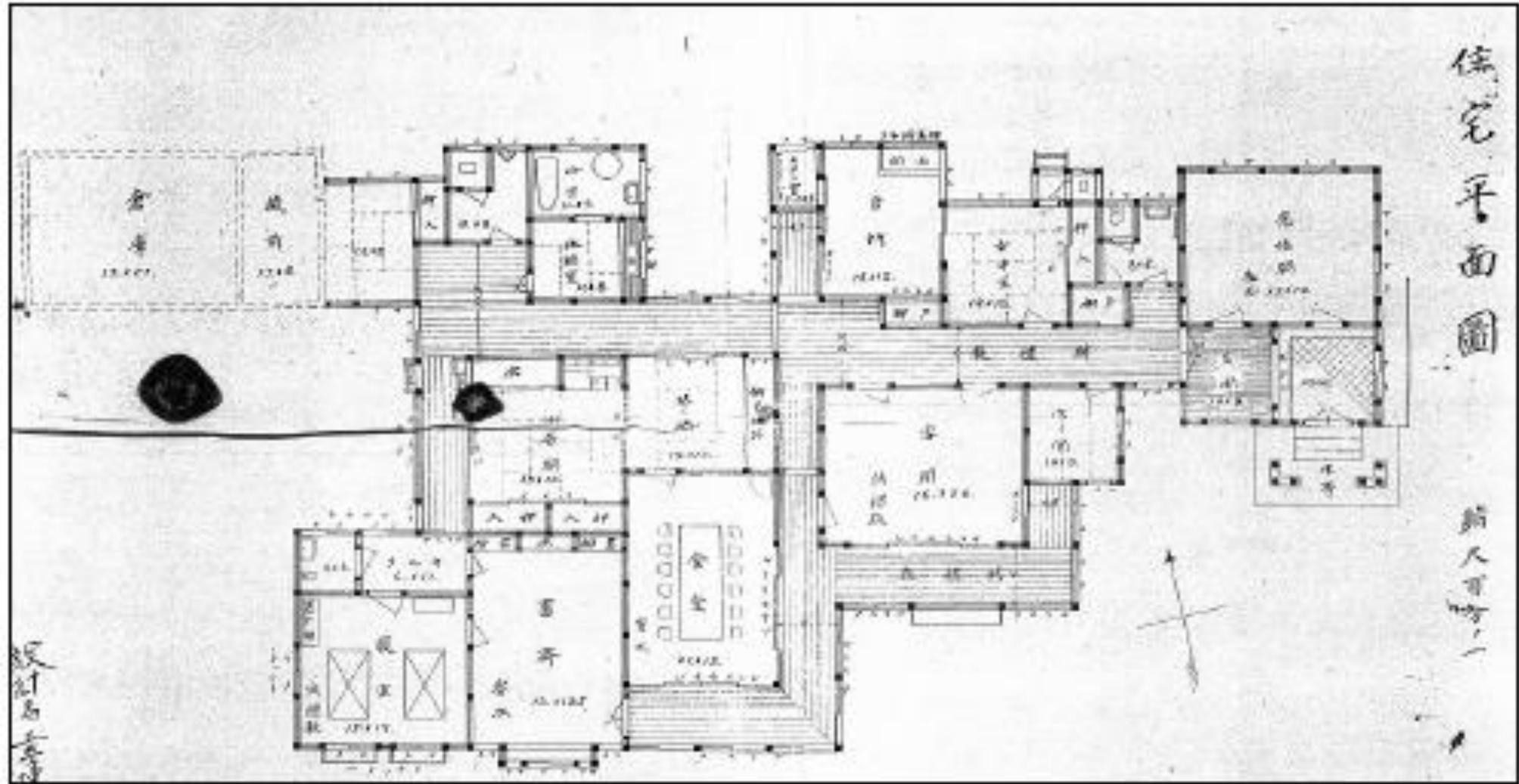
移動

同	十一月十六日	松本平三	大阪浪速貿易商會現場へ轉勤
同	十七日	黒田条次郎	東京入澤邸現場へ同
同	廿六日	伊藤須藏	京都出張所へ同
同	廿七日	木村喬	野村銀行京都大宮出張所現場へ同
同	十二月二日	淺野準一	信友商店濱松支店現場へ同
同		和田稜資	東京支店工務部へ同
同		田中明俊	東京前田侯爵邸現場へ同
同		三上藤之輔	東京箕田邸現場へ同
同	四日	小川利喜藏	東京南部伯爵邸現場へ同

昭和元年（1926）年の店報に記載された入澤邸の記事

### (3) 建物自体が内包している価値

ポイント：荻外荘には古図面や古写真が多数残されている



昭和2年(1927)創建時の平面図(杉並区蔵)



## 1\_「荻外荘」と復原整備事業の概要

## 2\_「荻外荘」の基礎知識

2-1\_「荻外荘」建設に至る背景

2-2\_「荻外荘」の場所的価値

2-3\_「荻外荘」の建築的価値

2-4\_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5\_「荻外荘」に関する新発見

## 3\_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1\_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2\_軸組の復原

3-3\_内装の再現(客間が主)

3-4\_復原の社会的意義

## 4\_「荻外荘」の復原整備工事

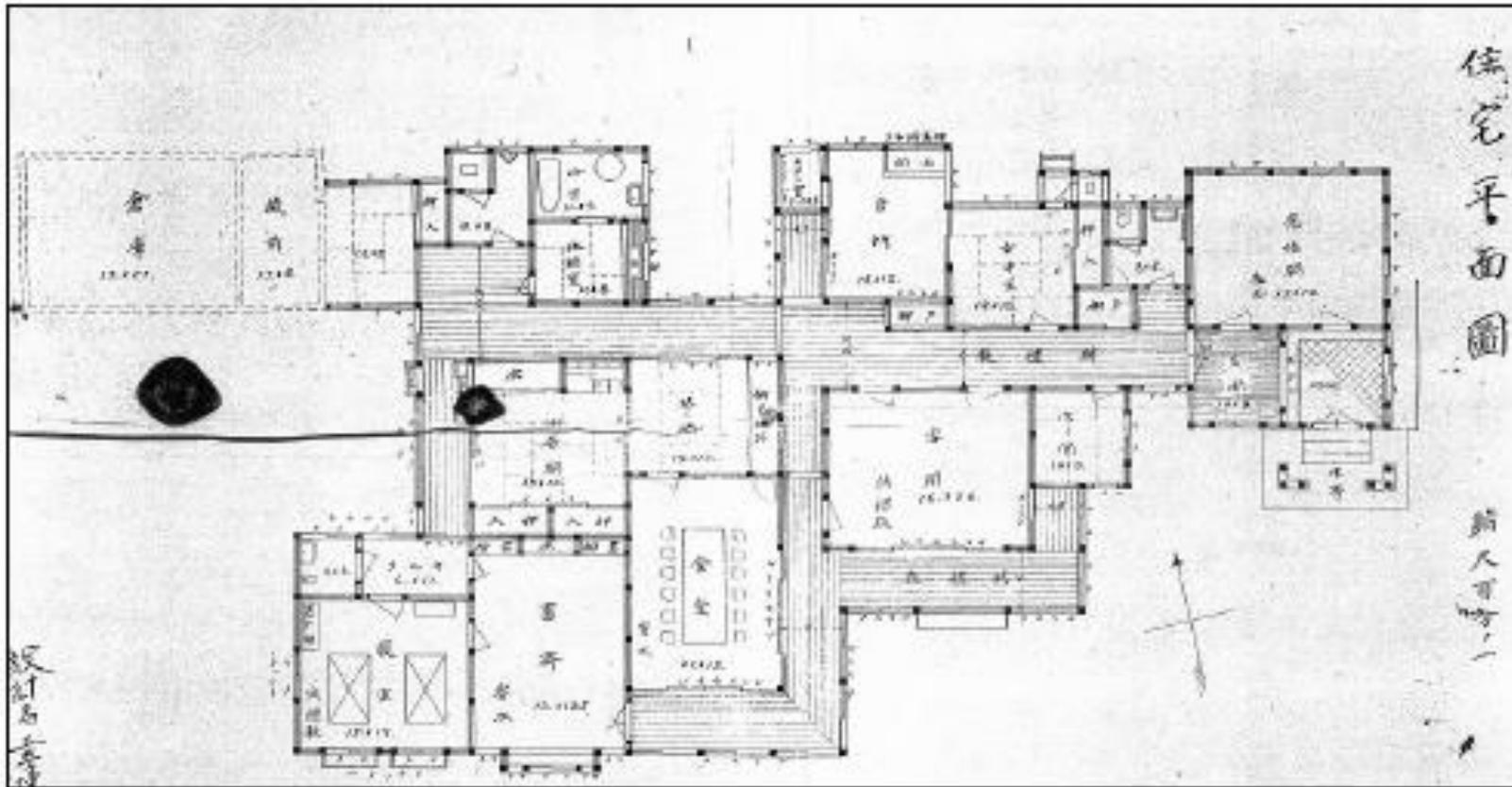
4-1\_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2\_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3\_復原整備工事における製作物について

## 2-4\_創建時の荻外荘にみる建築的特徴

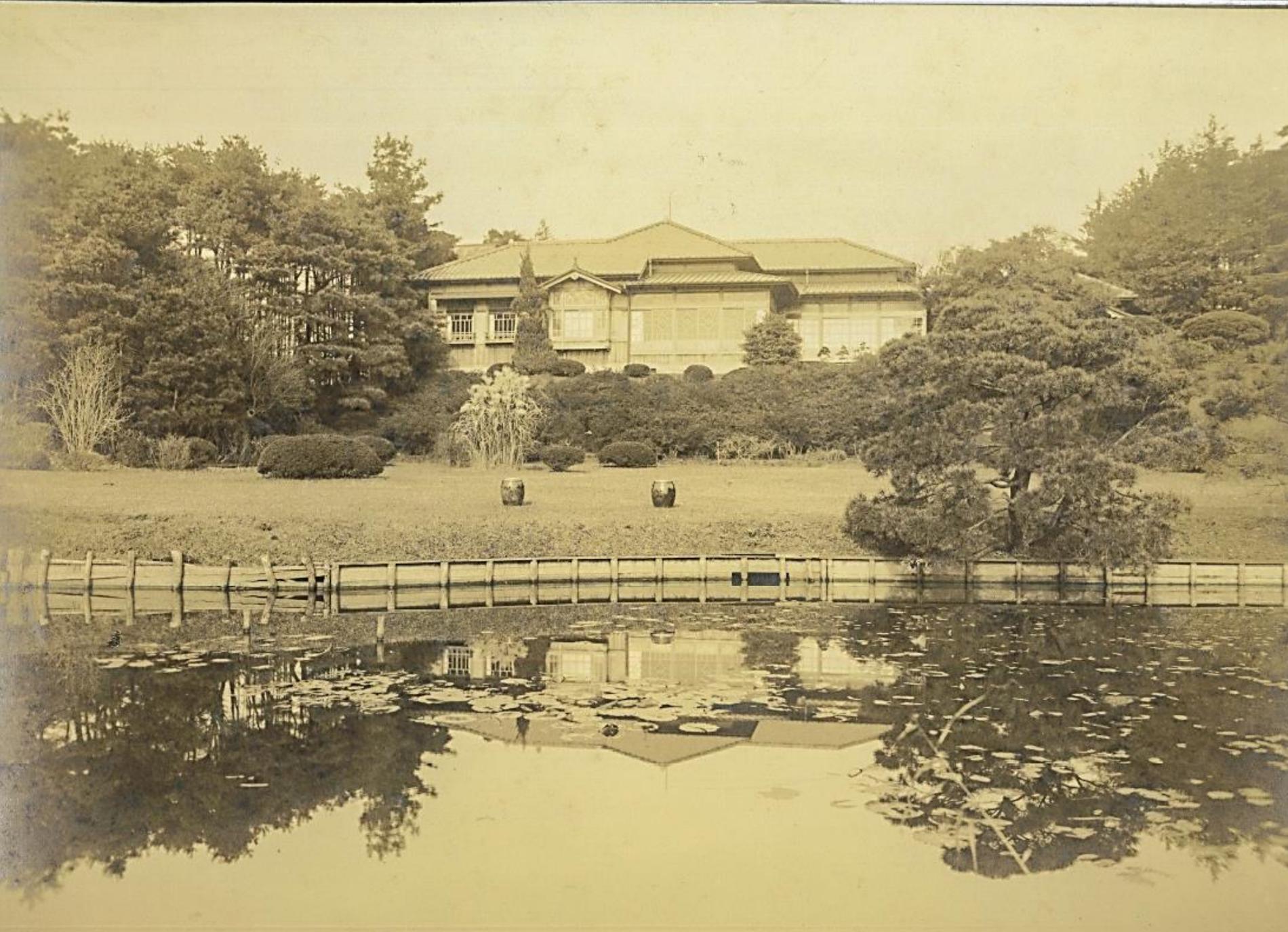
ポイント：5つの建築的特徴を伊東忠太の住宅設計思想の手法として実証



- ① 各部屋が廊下で結ばれている
- ② 廊下によって部屋の用途毎のまとまりが区画されている（家族用、客用、水廻り）
- ③ 家族用のスペースと比較して客用スペースが大きい
- ④ 家族用諸室（寝室、書斎、食堂）と客間が南面の良い場所に配置されている
- ⑤ 柱が非常に多く、柱間の両端に幅の小さな壁を配している

昭和2年(1927)創建時の平面図（杉並区蔵）

『（仮称）荻外荘公園整備基本計画』令和元年5月、p.12



外觀写真  
(池南側より)

創建時、個人所蔵

寢室 書齋

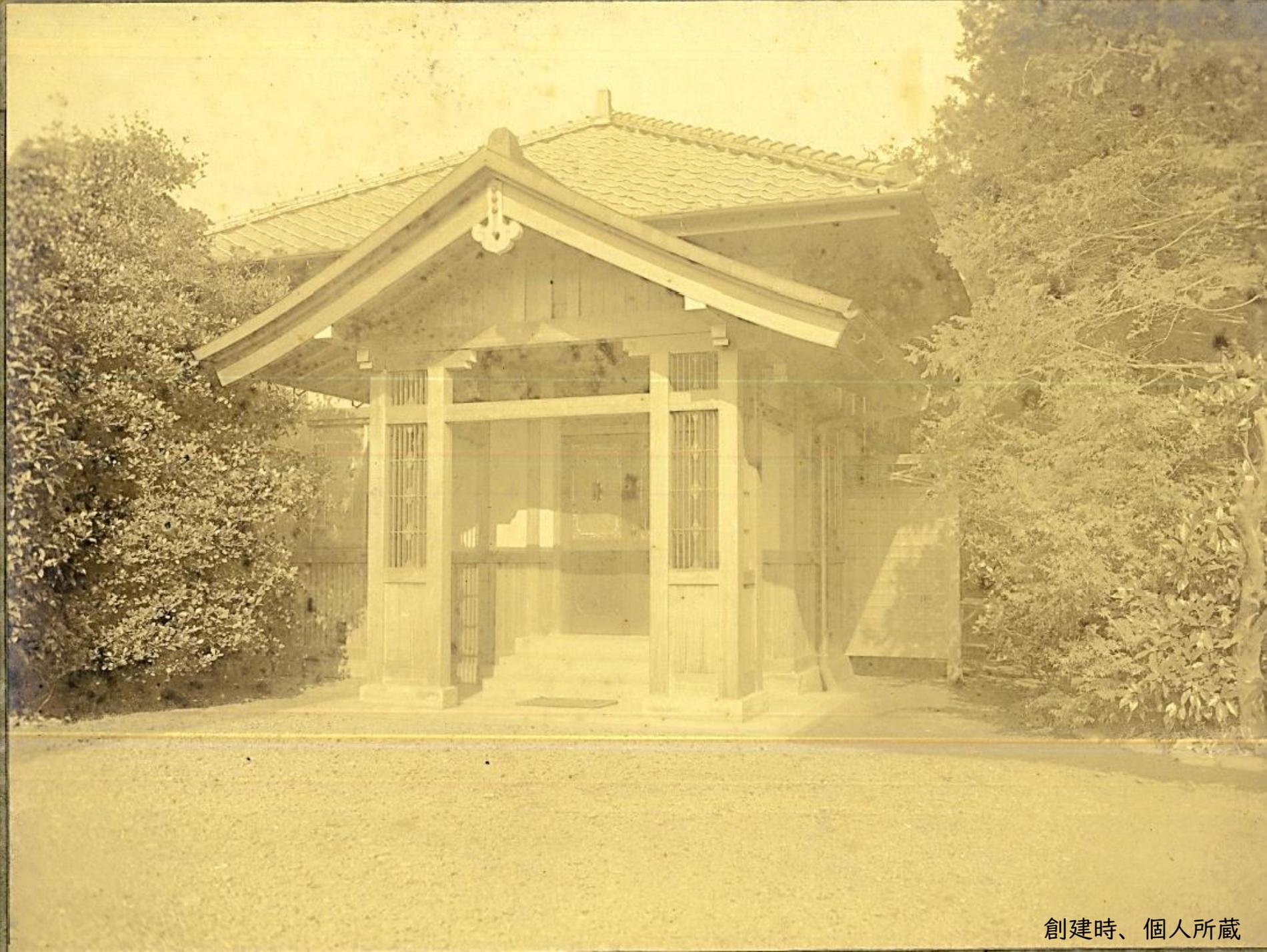
食堂

客間

応接室 玄関



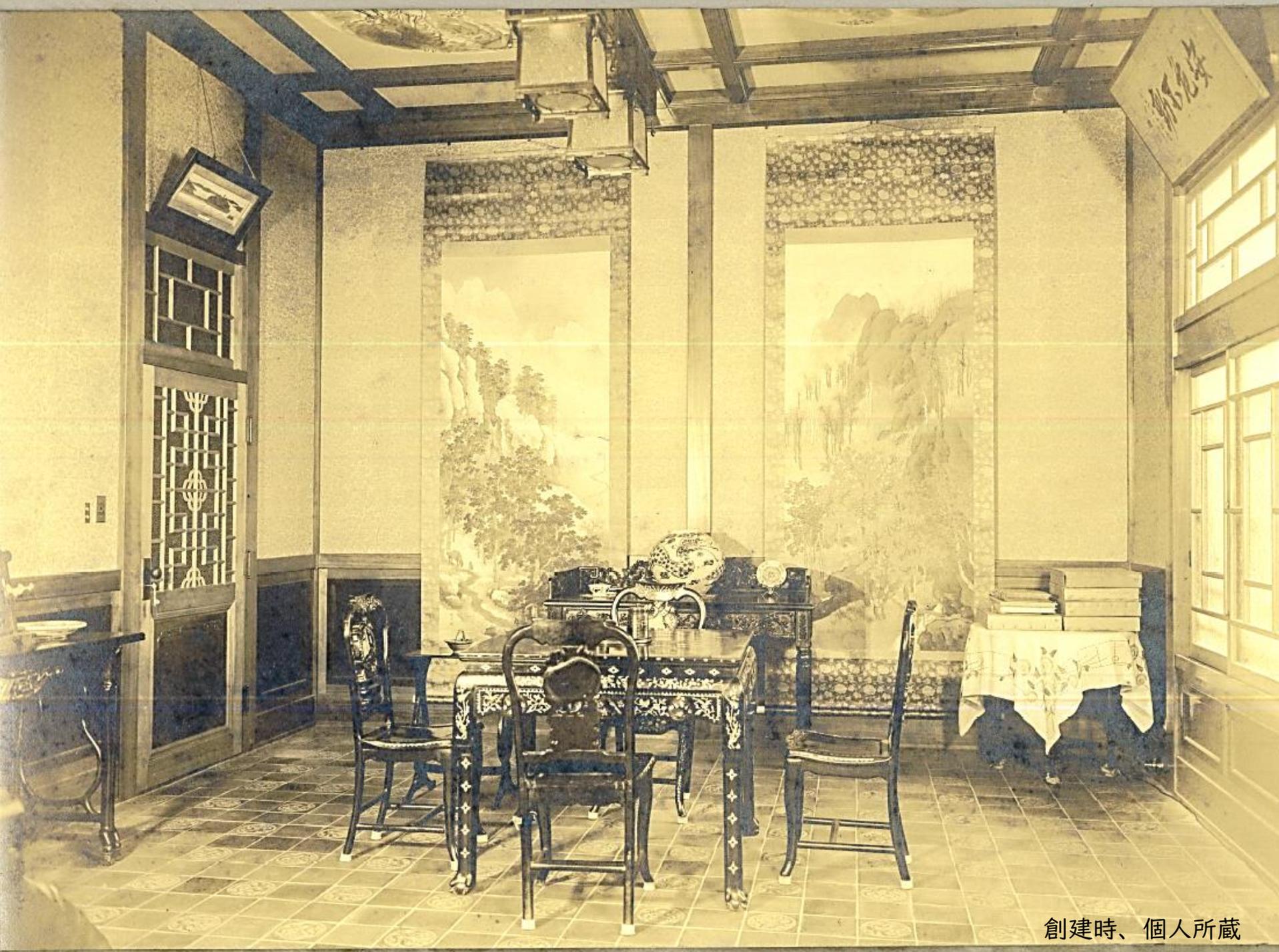
外観写真  
(南東側より)



外觀写真

(玄関) 25

創建時、個人所蔵



内観写真  
(応接間)<sub>26</sub>

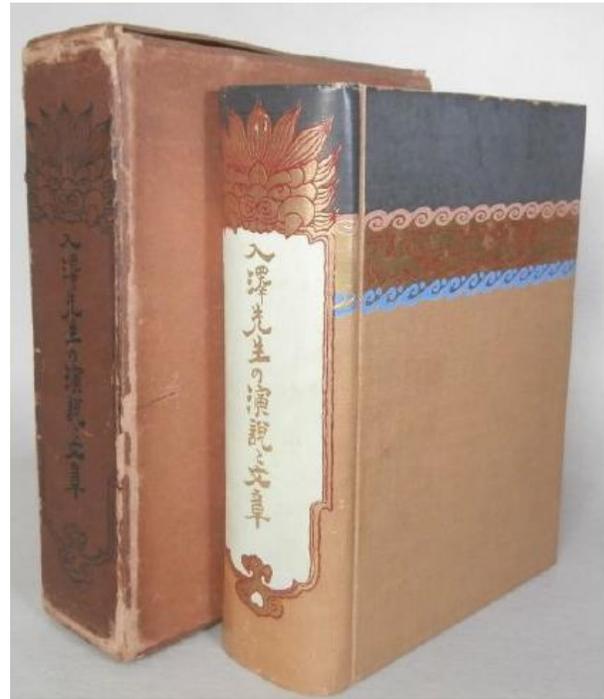
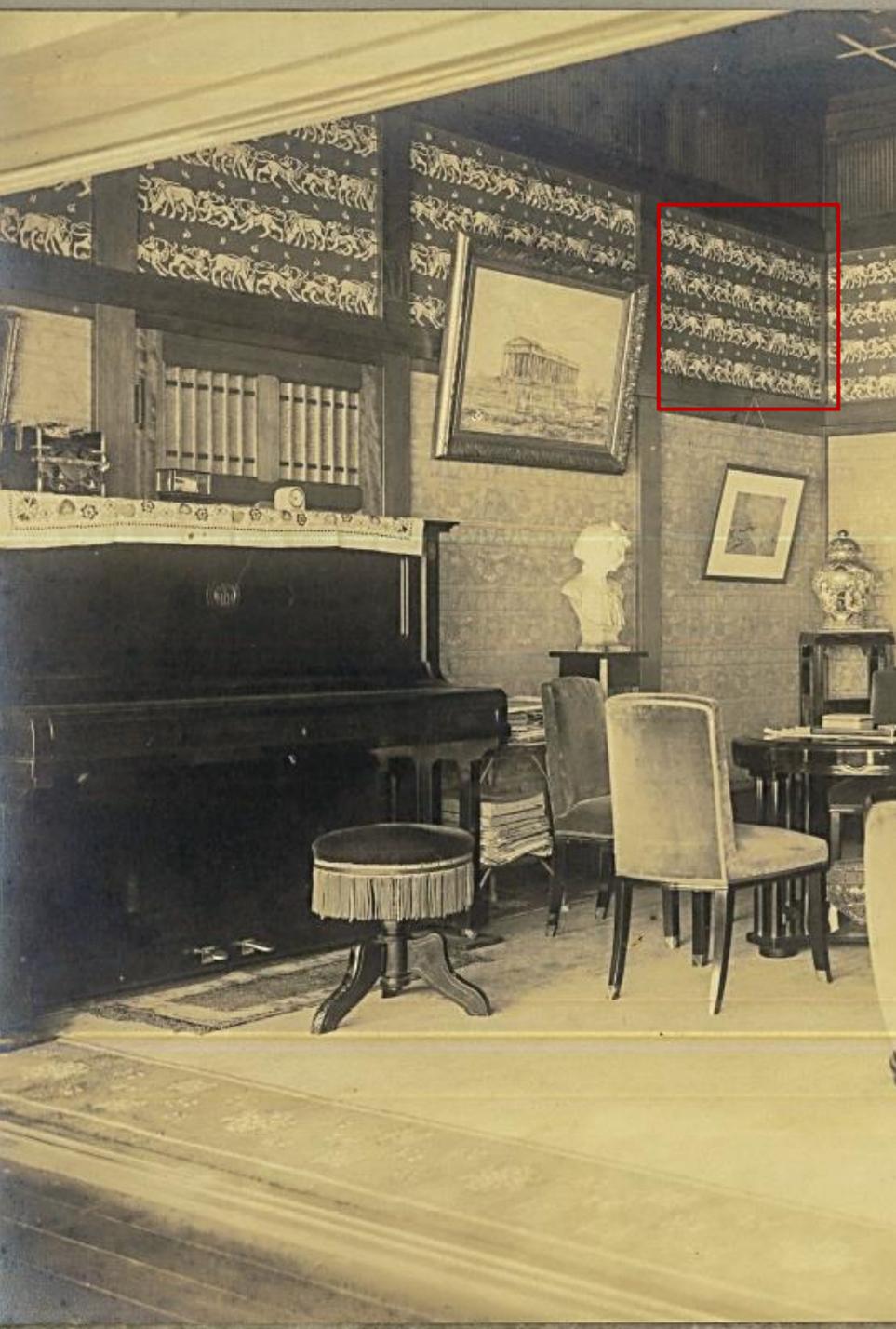
創建時、個人所蔵



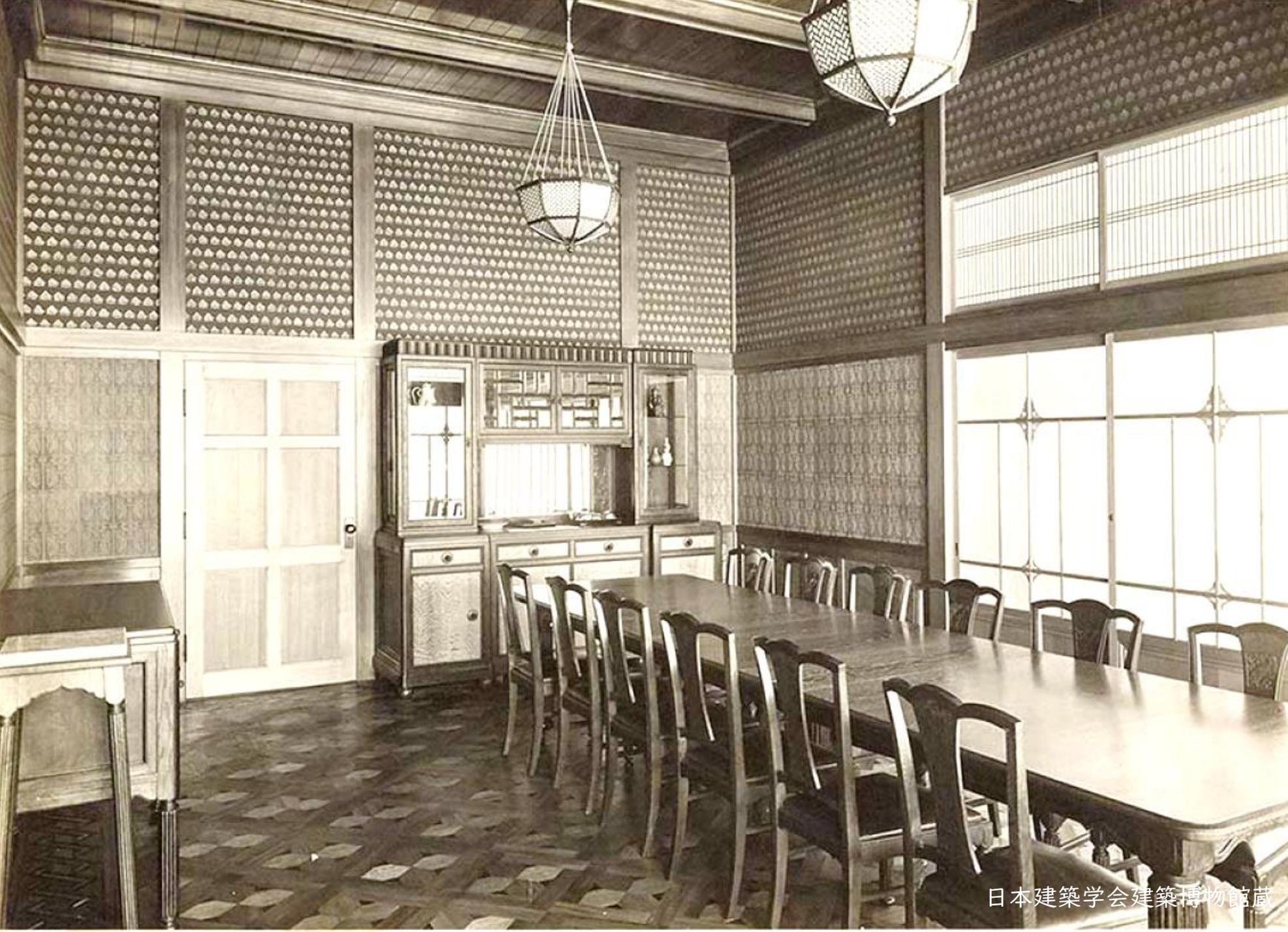
# 内観写真

(客間) 27

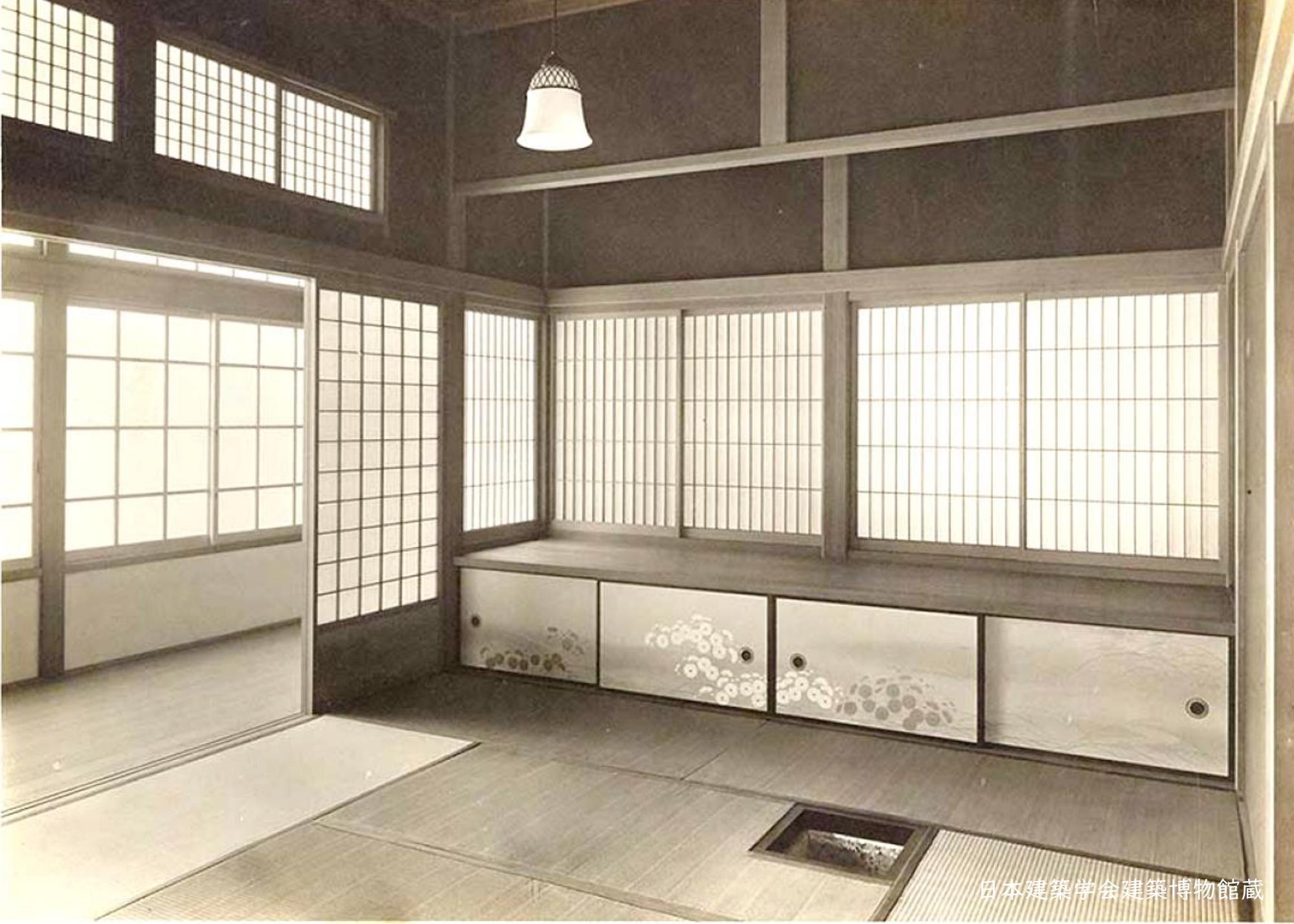
創建時、個人所蔵



『入澤先生の演説と文章』（入澤内科同窓会、昭和7年）の装丁  
装丁デザイン：伊東忠太



内観写真  
(食堂)



内観写真  
(茶の間)



日本建築学会建築博物館蔵

内観写真  
(居間)<sup>31</sup>



内観写真

(寝室)



内観写真  
(書齋)

『伊東忠太建築作品集』より



## 1\_「荻外荘」と復原整備事業の概要

## 2\_「荻外荘」の基礎知識

2-1\_「荻外荘」建設に至る背景

2-2\_「荻外荘」の場所的価値

2-3\_「荻外荘」の建築的価値

2-4\_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5\_「荻外荘」に関する新発見

## 3\_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1\_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2\_軸組の復原

3-3\_内装の再現(客間が主)

3-4\_復原の社会的意義

## 4\_「荻外荘」の復原整備工事

4-1\_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2\_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3\_復原整備工事における製作物について

## 2-5\_「荻外荘」に関する新発見

### 荻外荘に対する伊東忠太の意志に関する近衛文麿の文章

「（前略）（入澤達吉の）親戚の伊東博士が、自分に任して〔ママ〕、自分の思う通りの家を建てさして呉れと申込んだのを承知して、伊東博士に一切を任されたのだそうである。伊東博士は、将来の日本家屋の標準を打ちたてるのだというえらい抱負と意気組〔ママ〕で、苦心経営、設計だけでも半年を費やし、工事に二年あまりをかけ、昭和三年に竣工した」

近衛文麿「荻外荘清談（三）」『政界往来』3月号、政界往来社、昭和15年（1940）3月

※典拠：山野敬史「伊東忠太の中流住宅観と標準家屋としての旧入澤達吉邸（現・艇荻外荘）について」

『日本建築学会大会学術講演集梗概』2023年、pp. 301-302